

労使研

「情報」第47号 2014年 1月

労使関係研究協会

〒105-0014 東京都港区芝2丁目
20番12号（友愛会館8階）

電話：03-3453-5386

FAX：03-3451-1710

関西支局

〒550-0001 大阪市西区土佐堀
1丁目6番3号

（JAM西日本会館内）

電話：06-6225-2881



平成26年・新年を迎えて



会員の皆さん、あけましておめでとうございます。

新しい年を迎えて、一般財団法人日本労働会館 労使関係研究協会
を代表してご挨拶を申し上げます。

昨年度は、安倍政権が誕生し、デフレ脱却をめざしてアベノミクス
を旗揚げ、大規模な金融緩和と財政出動を進めました。

その結果、急激な円安と株価の急上昇を引き起こし、大手企業を
中心として一気に景気が上向いたように伝えられています。

しかし、中小企業の労働者や一般庶民には、そのような実感が薄くアベノミクスの経済効果が真に問
われるのは、今年にかかっていると言わざるをえません。時に、労働運動から見れば、今年の春闘が労
働側の大きな勝利とならなければ、アベノミクスは、消費者物価の引上げだけが残るといふ結果に終わ
り、庶民の生活は更に厳しい状況に陥る事になるでしょう。この事は、一般財団法人日本労働会館の収
益事業に大きな影響力を与えるだけに、今年は特に気になるところです。

さて、昨年度は新会館がオープンして2年目にあたり、積極的に事業展開をしてまいりました。特に
財団法の改正によって、日本労働会館が、財団法人から一般財団法人に移行して、初年度を迎えた年でも
ありました。一般財団法人に移行して公益目的事業の確実な推進を計ることが求められ、労使関係研
究協会も当初の計画を着実に推進してまいりました。

さらに平成26年は、一般財団法人に相応しい公益目的事業の推進という目的に合わせ、活動の強化
をはかりたいと思います。その基本は、一般財団法人日本労働会館の定款の第一に掲げた、公益事業と
して日本で唯一の労働歴史館の運営にあります。労使関係研究協会は、従来は会員の皆さんに必要なサ
ービスを提供することが主体でしたが、従来の活動を見直し、時代のニーズを的確にとらえるとともに、
公益事業に相応しい活動のあり方を追求していきたいと考えています。

会員の皆さん方の積極的な参加で、より良い労使関係研究協会の新たな活動を積極的に推進したいと
考えます。本年も労使関係研究協会の活動に積極的なご支援、ご協力を賜りますよう改めてお願い申し
上げます。



労使関係研究協会
会長 小出幸男



◇第8回労働講座が開催されました

テーマ「造船産業（石川島播磨労組・東京支部）の民主化闘争」

—荒川和雄氏（元石播東京支部執行委員長）を招き講演—



第8回労働講座を、11月29日に開催しました。テーマは「造船産業の民主化闘争」。講師は元石川島播磨重工労組・東京支部執行委員長の荒川和雄氏で、戦後労働運動の黎明期に左翼労働運動が台頭する中で職場の民主化を求めて戦った石川島造船所の経験を語っていただきました。

荒川氏は戦後すぐに全造船石川島分会の活動に参画。同僚の市川健蔵氏、今年亡くなられた元造船重機労連委員長の金杉秀信氏とともに石播労組の三羽ガラスと言われ、労働組合による民主化闘争を進めてきました。当初は全造船そのものの民主化を目指しましたが、途中から方針を転換。全造船を脱退し造船重機労連を結成し、造船産業労組の結集を図り全造船を崩壊に導きました。

講演会には労使関係研究協会会員や友愛労働歴史館関係者など約40名が参加しました。

<造船産業労働組合民主化の軌跡>

1. 終戦後に結成された労働組合の特徴
2. 党と労働組合の関係
3. 造船総連と全造船機械

造船総連 昭和22年9月12日結成。主要加盟組合は戦前運動家の市道で組織化。総同盟造船連合会直轄加盟。

全造船機械 昭和21年9月1日結成。運動未経験者のリーダーシップで組織化。60組合。

4. 全造船二八会発足

全造船は丹頂の鶴。左翼を本部に追い出し、単組は安泰。

民主化勢力の台頭（昭和24年）と敗北（昭和27年）

全造船民主化連盟→二八会（昭和34年8月）

全造船脱退へ方針転換

全国民連結成（昭和38年2月）

5. 全造船機械の崩壊



※本講座はDVDに収録しています。

◇第 74 回研修会が実施されました

「陸自朝霞駐屯地・りっくんランド」見学



労使関係研究協会は 2013 年 12 月 4 日（水）、第 74 回研修会東京都、埼玉県境の陸上自衛隊朝霞駐屯地を訪問しました。見学したのは広報センター「りっくんランド」。担当責任者の方から最初に説明をいただきましたが、平日で 300 人くらい、休日になると 1000 人に達する日もあるということでした。



自衛隊は震災や台風被害などに対する災害派遣で信頼感が高まっています。また中国や北朝鮮等の脅威から国の安全についても関心を集めています。今日はその警察予備隊以来の歴史と、現状



について学ぶとともに、その装備を見、体感させてもらいました。

◇第 75 回研修会が実施されました。

はしご車の試乗体験・モリタ工場見学会



第 75 回見学研修会を 12 月 10 日、(株)モリタ三田工場で開催しました。(株)モリタは創業100年を超える名門企業で、日本の消防自動車の5割以上、はしご車では9割以上のシェアを持っています。労働組合はJAMに加盟しています。

岡田工場長、明賀労組執行委員長の歓迎の挨拶をうけ、ビデオによる工場の概要説明がありました。当工場では年間700台以上の消防自動車を製造しますが、受注先の大半が市

町村で、予算の関係でそのうちの8割が 10 月～3月に集中するそうです。更に全てが受注生産で、1台 1 台仕上げが異なり、ライン製造ではなく、手作業で完成させているので、春から夏は週休3日、秋冬は週休1日で稼働しているとのこと。

広い工場全体に赤い自動車が多量に並び、4～5人の作業員がチームで1台1台と組み上げていく様子がよくわかります。塗装工場や完成した消防自動車を間近に見学、市町村により赤色も微妙に違うと案内があり、最近では海外の受注もあり、



ベンツのトラックに乗った大きな消防自動車もありました。今の時期は、受注先の市町村の人や、小中学校の見学申し込みで、連日詰まっているそうです。

今回は特別にはしご車の試乗会がありました。はしご車は最高54mの高さまで伸びますが、今日は研究用の30mのはしご車。それでもビルの10階に相当する高さで、下から見上げるだけでも脚が震えそうです。最後にモリタ労働組合の、明賀特別執行委員から組合の活動等について報告を頂き、意見交換の後、無事モリタ三田工場の見学会を終了しました。当日の参加者は工場が兵庫県三田市にあり、小型バスで現地まで移動した関係で、22名となりました。



◇友愛労働歴史館から

ユニテリアンと社会運動研究会第5回勉強会を開催、11月19日！

友愛労働歴史館は昨年10月、ユニテリアンと社会運動研究会（略称：ユニテリアン研）をスタートさせ、ユニテリアン教会・惟一館ゆかりの人々による社会主義運動、労働運動の勉強会を進めてきた。ユニテリアン研・第1～第4回勉強会のテーマ・講師は次の通り。

第1回勉強会：「解散後のユニテリアンたち：自己信頼をめぐる」・土屋博政先生、

第2回勉強会：「ユニテリアン主義、成瀬仁蔵、そして普遍宗教」・土屋博政先生、

第3回勉強会：「論文『クレイ・マッコレーイ伝』を読んで」・間宮繁子氏、

第4回勉強会：「ユニテリアン安部磯雄：その先見性と時代による制約」・土屋博政先生



そして第5回勉強会は11月19日（火）午後、西尾安裕氏（前デジタルハリウッド大学大学院客員教授。西尾末広孫）を講師に、「マッコレーイ牧師を生んだ米国移民グループについて」をテーマに、友愛労働歴史館研修室で開催された。

米国ユニテリアン協会のクレイ・マッコレーイ牧師は、福澤諭吉らの招聘により明治22年に来日し、明治27年にユニテリアン教会・惟一館（現友愛会館）を建設している。彼はまた、大正元（1912）年の鈴木文治による友愛会創立を支えたことで知られている。

ユニテリアン研究者として知られる土屋博政慶大名誉教授・牧師は、『改革者』2012年8月号の論文「惟一館なくして友愛会なし—日本ユニテリアン協会と友愛会発足—」の中で「マッコレーイが友愛会誕生に際して、助産婦役をはたした」と記述している。

さて勉強会で西尾氏は、マッコレーイ牧師を生んだ米国移民グループのルーツと、彼等がアメリカの歴史に与えた影響、アメリカ建国に果たした役割などについて報告。これによればマッコレーイ牧師はスコットランド系アイルランド人移民の子孫で、彼らはスコッチ・アイリッシュと総称され、民族的にはスコットランド、地理的にはアイルランドをルーツに持つ人々とされている。

以下、詳細は略すが、西尾氏は特にスコットランド系アイルランド人（スコッチ・アイリッシュ）の意味、その誕生などについて、スライドを活用しつつ報告を行った。